

曾祖母のお墓参りで誓うこと

学校法人滝学園滝中学校 2年 卯田 彩乃

お盆が近くなると、一昨年亡くなったひいおばあちゃんのことを思い出す。ひいおじいちゃんが立ち上げた会社を、自分自身は「縁の下の力持ち」だったと言って、一緒になって働き、税金もたくさん払ったんだと、よく武勇伝のように語っていた。その時私はまだ小学生だったが、少し税については勉強したので、税の仕組みや、税を納めなければいけない理由もなんとなくは分かっているつもりだった。でも、お母さんと一緒に買い物に行くようになった頃、消費税 10%の税込表示の商品を購入する度に、なぜか税金を取られているような感覚を覚えていたのも事実だ。

母が仕事の時には一緒にお留守番もしてくれていた曾祖母だったが、四年前に急に倒れてしまう。救急車で運ばれてから約二年間はほぼ寝たきりの状態になり、自宅には帰ってこれず介護施設にお世話になることになった。私も都合がつけば母とお見舞いに行ったりしたが、家族が順番でも毎日お世話に行くのは難しく、常に誰かがいてくれる介護サービスの存在にありがたみを感じた。この時、曾祖母の入院費用はどうしているんだろうと気になった私に、祖父は「税金がうまく使われているんだよ。」

と教えてくれた。調べてみると、税金の歳出のトップ項目は、私たちの健康や生活を守るための社会保障関係費だった。すると母が、

「おばあちゃんの今の生活は、税金で助けてもらっているってことだよな。

働き者だったおばあちゃんの話はよく聞いていたけど、なんだか昔納めていた税金が、こうして自分に返ってきているみたいだね。」

と何気なく言った一言にはっとした。

国や都道府県・市町村は、私たちが豊かで安心した暮らしができるように、いろいろな公共サービスを行っている。そしてこれらの公共サービスを受けたりできるのは、税があってこそだ。税を自分もみんなも同じように負担するからこそ、意味がある。私にとって一番身近なのは消費税だが、税は取られるだけのものだと感じてしまっていた矛盾に気付き、とても恥ずかしくなった。税金を払うことは自分以外の人が安心して生きることにつながる。その昔、曾祖母が納めた税金はその時代の社会のために使われていたのだろう。そして、今、私の両親が納める税金は、今の社会のために使われている。曾祖母の介護サービスがきっかけで、頭では分かっていたはずの税の仕組みについて、改めて考え直すことができた。

今の私は、教科書が無償で支給されたり税によって支えられる側にいるが、社会人になったらしっかりと働き、税金を納め、日本の社会に貢献できる大人になりたいと願う。その時、私が納めた税金で、今度は私の祖父母の力になれるように。お盆の曾祖母の墓参りでは、心の中でそう報告したいと思う。